

I-③ いじめに関する社会貢献活動

(滋賀大学・教育学部)

活動名	カウンセリング
対象者	心理的・身体的問題をもつ子どもとその保護者
実施期間	24年1月～現在に至り、継続支援
活動場所	京都文教大学心理臨床センター・関西医科大学附属枚方病院
教員名（専門分野） 関係者等	芦谷 道子（臨床心理学）
参加者数	京都文教大学心理臨床センター（約数名） 関西医科大学附属枚方病院（約20名）
活動の目的	心理的・身体的問題をもつ子どもとその保護者に対する心理的支援。 いじめの悩みを抱える子どもたちが少なからず含まれる。
成果	心理的・身体的問題の改善。
<p>【活動内容】 心理的・身体的問題をもつ子どもとその保護者に対し、心理療法を行なっている。いじめの問題がある場合は、その内容を聞き取り、具体的な対策を共に模索している。学校と連携することもある。</p>	

I-③ いじめに関する社会貢献活動

(大阪教育大学・教育学部)

活動名	ナラティブと質的研究会
対象者	研究会メンバー及び参加希望者
実施期間	平成 24 年 12 月 1 日 (土) 13 時-17 時
活動場所	立命館大学 (衣笠キャンパス) 創思館 401・402 号室 京都市北区等持院北町 56-1
教員名 (専門分野) 関係者等	山田洋子 (生涯発達心理学・京都大学名誉教授)・戸田有一 (教育心理学・大阪教育大学教授)・森岡正芳 (臨床心理学・神戸大学教授)・宮川正文
参加者数	30 名
活動の目的	単なる「情報収集」「勉強会」とは異なる一回性の「語り共同生成の場」ではなく、場のなかで生まれる生 (なま) の語り、みんなで紡ぎだすあつい渦のような語りの経験を共にするため、参加者も自由に語りあう。ナラティブ・アプローチでは、当事者の立場を重視し、当事者の立場によって同じ出来事にも複数の物語があることを許容し、社会・文化的文脈を重視し、文脈依存的でローカルな現実を見ようとする。
成果	<p>いじめによる不登校の当事者の、家庭での確執の日々、宗教施設への強制入所と脱出、刃物を隠し持った再登校、高校中退。やくざの勧誘をすんでのところで断って、アルバイトで自活。その中で、同じ不登校の子どもたちの会を作り、文章を書き、子どもたちの自立のため居場所をパソコン学習の場にし、大学の研究室に酒を持って「教えてくれ」と行く。やがて、その大学で非常勤講師として働き、公設民営の居場所のセンター長、総務省や研究所でのアルバイト。中卒のまま法政大学大学院に入り、修了。しかし、その学歴がかえって妨げとなり、アルバイトもできない現状。その間、一貫して、子どもたちを支える相談サイトの運営をしてきた。</p> <p>その語りに、大学教員も、院生も、固唾をのんで聴き入った。いじめの実態が赤裸々に語られるとともに、その自分を苦しめた問題で今苦しむ子どもたちをどのように支えているのか等、多くの質問がなされた。</p> <p>宮川氏の運営している相談サイトの改良への方向性、その相談内容のナラティブの質的分析の必要性などが議論され、非常に充実した会となった。</p>

【第2回「ナラティブと質的研究会」】

◆テーマ：「いじめへのナラティブ・アプローチ」

◆内容：かつて「いじめ・不登校」の当事者であり、ネットでの相談掲示板の実践を10年以上つづけてこられた方の語りを、いじめを専門に国際的に活躍する教育心理学者が対話しながら聞き、ナラティブとスクールカウンセラーの造詣が深い臨床心理学者が討論する。

◆話題提供者：宮川正文・戸田有一（教育心理学、大阪教育大学）森岡正芳（臨床心理学、神戸大学）

◆主催：ナラティブと質的研究会事務局

共催：日本発達心理学会「ナラティブと質的研究会」分科会、日本心理学会研究会

◆企画・司会：山田洋子（科学研究費補助金 基盤研究 A「多文化ナラティブ・フィールドワークによる臨床支援と対話教育法の開発」代表者）

I-③ いじめに関する社会貢献活動

(大阪教育大学・教育学部)

活動名	いじめ予防講演会 「おとなも子どももいじめを乗り越えよう - 幼児期・児童期からできるいじめ予防 - 」
対象者	主に幼稚園・小学校保護者（幼稚園教員も含む）
実施期間	平成 24 年 11 月 21 日（水）
活動場所	学校法人 やまなみ幼稚園（大阪府寝屋川市）
教員名（専門分野） 関係者等	戸田 有一（教育心理学）
参加者数	73名
活動の目的	いじめが社会問題化している昨今、幼児期や児童期からできる大人の子 どもへの関わり方やいじめに対する考え方について、最近のいじめの現 状をふまえて、予防という観点から保護者や教員に対する啓発を目的と して行った。
成果	いじめに対する考え方を中心にしながらも、身近な事例をたよりに「ど のようにしたらよいのか」という子どもへの具体的な関わりまでもが示 されたことにより、保護者のいじめに対する理解が深まったとともに、 日常的な子どもへの関わりにおいても参考になることが多く、家庭での 活用が期待できるものであったと思われる。
<p>【活動内容】</p> <p>◆主催者挨拶</p> <p>◆講演「おとなも子どももいじめを乗り越えよう - 幼児期・児童期からできるいじめ予防 - 」 講演者氏名 戸田 有一</p>	

I-③ いじめに関する社会貢献活動

(大阪教育大学・教育学部)

活動名	日本カウンセリング学会 繰り返すいじめ問題をあらためて考える
対象者	学校教員, 保護者, 教育関係者, カウンセリング関係者
実施期間	平成 24 年 11 月 18 日
活動場所	早稲田大学
教員名 (専門分野) 関係者等	河村茂雄 (早稲田大学) 瀧澤洋司 (長野県南牧村立南牧南小学校) 鹿嶋真弓 (逗子市教育研究所) 粕谷貴志 (奈良教育大学) 水野治久 (大阪教育大学) 石隈利紀 (筑波大学)
参加者数	110名
活動の目的	カウンセリング学会において公開シンポジウムを行う, カウンセリング学会関係者がいじめに関わる日頃の研究成果, 実践成果を発表し, いじめをどのように予防しているのかについて意見交換した。
成果	水野は, いじめ被害を受けた子どもがどのように教師やカウンセラーに援助を求めるのか (被援助志向性) といじめを予防するためのチーム援助について報告し, いじめを予防する教員をどのように養成していくのかについて問題提議した。教育委員会などと連携しモデルカリキュラムを策定するなどの具体的なアクションが必要なことも提言した。
<p>【活動内容】</p> <p>◆開会宣言</p> <p>◆主催者挨拶</p> <p>◆基調講演「日本の学校のいじめ問題を考える～学級集団, 学校組織の観点から～」 講演者氏名</p> <p>◆シンポジウム</p> <p>小学校現場の視点から 瀧澤洋司 (長野県南牧村立南牧南小学校) 中学校現場の視点から 鹿嶋真弓 (逗子市教育研究所) 学校現場をサポートする視点から 粕谷貴志 (奈良教育大学) 学校現場をサポートする視点から 水野治久 (大阪教育大学) 指定討論 河村茂雄 (早稲田大学) 石隈利紀 (筑波大学)</p>	

I-③ いじめに関する社会貢献活動

(大阪教育大学・教職教育研究センター)

活動名	子どもフォーラム「いじめや不登校を生み出さない学校・学級づくりのためのピア・サポート活動」
対象者	小学校・中学校・高等学校教員，特別支援学校の児童生徒及び教員
実施期間	平成25年3月22日（予定） ※平成19年度から実施している。
活動場所	大阪市福島区民ホール
教員名（専門分野） 関係者等	菱田準子（大阪教育大学教職教育研究センター） 大阪市教育委員会
参加者数	250名
活動の目的	いじめを生まない学校風土をつくるためのピア・サポート活動を各学校で推進し、その活動の成果を交流しあう。いじめが起きた場合、その後、仲間として何ができるのかを考えあい、次年度の活動を考える機会とする。
成果	子どもフォーラムに参加した児童生徒が、いじめを生まない学校・学級づくりのヒントを得て、次年度に自分の所属する学校で仲間支援の活動を推進する姿が多くみられる。 また、参加した教員がピア・サポート活動の理解を深め、学校教育活動において、児童生徒の力を引き出し活かす視点を学ぶ効果がみられる。 ※平成19年度から毎年実施している。参加する児童生徒も増加している。
<p>【活動内容】</p> <p>◆開会宣言</p> <p>◆主催者挨拶</p> <p>※以降はすべて児童生徒の代表が進行する。</p> <p>◆ピア・サポートリレー発表「いじめ問題を考えようⅠ（仮題）」6校</p> <p>◆グループディスカッション&全体交流</p> <p>「いじめ問題を考えようⅡ」</p> <p>※児童生徒が主体的に小グループでディスカッションを行い、全体交流する。</p> <p>◆主催者のまとめ</p>	

I-③ いじめに関する社会貢献活動

(大阪教育大学・教職教育研究センター)

活動名	現職教員研修での大学生の体験発表 ※大阪市「いじめ・不登校研修会」
対象者	小学校・中学校・高等学校教員，特別支援学校の教員
実施期間	平成24年11月14日
活動場所	大阪市教育センター
教員名（専門分野） 関係者等	菱田準子（大阪教育大学教職教育研究センター） 大阪市教育センター
参加者数	90名
活動の目的	<p>教員をめざす大学生のいじめに関わる体験談を聞き、教員としての児童生徒理解を深める。</p> <p>また、発表する大学生が、自らの体験を意味のある体験として認識し整理する機会とする。</p> <p>※「教職実践論」においていじめの体験の交流、教員としてどう考えるのか等、4コマを使って取り組んできた中で、希望する大学生を現職教員の研修において体験発表につなげた。</p>
成果	<p>大学生の小学校当時の体験時の本音やおもいを聞くことで、教員としての児童生徒理解を振り返る機会を作ることができた。教員のアンケートには自分の児童生徒への関わりを省察する言葉が多くみられた。</p> <p>大学生においては、現職教員の研修に貢献できたこと、現職教員が真剣に耳を傾けていただけたことが自信につながった。また、自分の体験の中で思いださないようにしてきた辛い出来事をひもとき、その体験と向き合い、意味ある体験として整理することにつながった。</p>
<p>【活動内容】</p> <p>◆いじめ問題の動向</p> <p>◆大学生の体験談</p> <p>○いじめられたことを先生に言えなかった体験</p> <p>○いじめられ続ける中で、どのように対応してきたのか</p> <p>○仲裁したくてもできなかったおもい。</p> <p>○いじめる側にいた時の先生の指導で感じたこと。</p> <p>◆グループディスカッション&全体交流</p> <p>○体験を聞いて感じたことや今何をすることが大切なのか ○大学生に聞いてみたいこと</p> <p>◆グループディスカッション&全体交流</p> <p>◆いじめ問題に対応するピア・サポートグループの取組みの事例紹介</p>	

I-③ いじめに関する社会貢献活動

(大阪教育大学・教育学部)

活動名	保護者のための講座「思春期の子どもを取り巻く環境～友だち関係を中心に～」
対象者	保護者
実施期間	平成 24 年 11 月 12 日
活動場所	茨木市男女共生センターローズWAM 5階501・502市文化会館
教員名（専門分野） 関係者等	牧 郁子（実践学校教育講座・臨床心理学）
参加者数	28 名
活動の目的	中学生のいじめ事例を引用しながら、いじめ被害者のみならず、いじめ加害者の心理的メカニズム（主に家族要因）・学校要因など、多角的な観点から、そのメカニズムを講演した。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめにおける加害者側の心理について、参考になった。 ・いじめのメカニズムがよくわかり、参考になった。 ・加害者側の心理がよくわかった。等の感想をいただいた。
<p>【活動内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆「思春期のいじめに関する講義」 ◆講義を受けての、グループディスカッション ◆グループディスカッションの結果に関するシェアリング 	

I-③ いじめに関する社会貢献活動

(兵庫教育大学・大学院学校教育研究科)

活動名	スクールパートナーシップ事業
対象者	加西市小・中学校教員
実施期間	2012年7月25日
活動場所	加西市立総合教育センター
教員名(専門分野) 関係者等	新井 肇(生徒指導・カウンセリング心理学)
参加者数	30名
活動の目的	小・中学校の教員を対象に生徒指導研修の一環として、『いじめ問題の理解と対応』というテーマのもと講義と演習を行い、いじめ理解と対応に関する教職員の生徒指導力と協働的体制を支える力の向上を図った。
成果	いじめ問題に関する基本的な理解のうえに、データや事例についての検討を行い、組織でいじめ発見・対応にあたるための考え方や方法に関する実践的な力量の向上をはかることができた。
<p>【活動内容】</p> <p>講義 1 いじめの社会問題化の4回の波 2 いじめ問題の難しさ：見つけること、対応、定義 3 学校・学級に人間関係といじめ ①いじめの4層構造 ②虐め発生の3要素 ③虐め尾背景となる集団のメカニズム ④最近の子どもの変質といじめの態様 4 いじめの早期発見・早期対応のために ①いじめのサイン ②いじめへの早期対応 ③いじめと犯罪 5 連携に基づくいじめ対応 ①生徒指導のプロセス ②開発的生徒指導の展開 ③組織的対応の実際 ④協働的生徒指導体制の構築 ⑤危機対応のための校内態勢 ⑥地域・保護者・関係機関との連携</p> <p>演習 いじめ自殺の事例を通して、学校の組織体生徒指導体制の課題について</p>	

I-③ いじめに関する社会貢献活動

(兵庫教育大学・大学院学校教育研究科)

活動名	スクールパートナーシップ事業
対象者	尼崎市立大成中学校教職員
実施期間	2012年11月20日
活動場所	尼崎市立大成中学校
教員名(専門分野) 関係者等	新井 肇(生徒指導・カウンセリング心理学)
参加者数	35名
活動の目的	中学校の教員を対象に『いじめ問題の理解と対応』というテーマのもと講義と演習を行い、いじめ理解と対応に関する教職員の生徒指導力と協働的体制を支える力の向上を図った。
成果	いじめ問題に関する基本的な理解のうえに、データや事例についての検討を行い、組織でいじめ発見・対応にあたるための考え方や方法に関する実践的な力量の向上をはかることができた。
<p>【活動内容】</p> <p>講義 1 いじめの社会問題化の4回の波 2 いじめ問題の難しさ：見つけること、対応、定義 3 学校・学級に人間関係といじめ ①いじめの4層構造 ②虐め発生の3要素 ③虐め背景となる集団のメカニズム ④最近の子どもの変質といじめの態様 4 いじめの早期発見・早期対応のために ①いじめのサイン ②いじめへの早期対応 ③いじめと犯罪 5 連携に基づくいじめ対応 ①生徒指導のプロセス ②開発的生徒指導の展開 ③組織的対応の実際 ④協働的生徒指導体制の構築 ⑤危機対応のための校内態勢 ⑥地域・保護者・関係機関との連携</p> <p>演習 いじめ自殺の事例を通して、学校の組織体生徒指導体制の課題について</p>	

I-③ いじめに関する社会貢献活動

(兵庫教育大学・大学院学校教育研究科)

活動名	スクールパートナーシップ事業 兵庫県私立中学高等学校生徒指導連絡協議会 学警合同会議
対象者	中学校・高等学校教員, 警察関係者
実施期間	平成 22 年 11 月 12 日
活動場所	兵庫県私学会館
教員名 (専門分野) 関係者等	古川 雅文 (学校教育研究科)
参加者数	100名
活動の目的	兵庫県の私立中学校および高等学校の生徒指導担当教員のための研修会。
成果	学校における問題解決について, おもに学校心理学の観点から解説した。 また, いじめも含めた学校における問題解決には, 協働体制とコミュニケーション, 及び予防・開発的取組が重要であること等を解説した。
<p>【活動内容】</p> <p>◆講演会 ①「少年非行の現状について」 県警本部少年育成課 平本和久調査官 ②「学校における問題解決をめざして」 兵庫教育大学 古川雅文教授</p> <p>◆地区分科会</p> <p>◆情報交換会</p>	

I-③ いじめに関する社会貢献活動

(兵庫教育大学・大学院学校教育研究科)

活動名	スクールパートナーシップ事業 柳学園高等学校 校内研修会
対象者	高等学校教員
実施期間	平成 23 年 8 月 19 日
活動場所	柳学園高等学校
教員名（専門分野） 関係者等	古川 雅文 （学校教育研究科）
参加者数	40名
活動の目的	柳学園高等学校の教員のための、主として教師暴力・保護者への対応に関する校内研修会。
成果	学校における問題解決および生徒指導について、おもに学校心理学の観点から解説した。また、いじめや保護者対応も含めた学校における問題解決には、協働体制とコミュニケーション、及び予防・開発的取組が重要であること等を解説した。
<p>【活動内容】</p> <p>◆研修会 「学校における問題解決をめざして」 兵庫教育大学 古川雅文教授</p>	

I-③ いじめに関する社会貢献活動

(兵庫教育大学・大学院学校教育研究科)

活動名	スクールパートナーシップ事業 滋賀県高等学校等教頭・副校長会 研修会
対象者	高等学校, 特別支援学校の教頭, 副校長
実施期間	平成 24 年 10 月 15 日
活動場所	滋賀県庁新館 大会議室
教員名 (専門分野) 関係者等	古川 雅文 (学校教育研究科)
参加者数	90名
活動の目的	滋賀県の高等学校教頭・副校長のための, 学校運営に関する校内研修会。
成果	学校における問題解決および生徒指導について, おもに学校心理学の観点から解説した。また, いじめや保護者対応も含めた学校における問題解決には, 協働体制とコミュニケーション, 及び予防・開発的取組が重要であること等を解説した。
<p>【活動内容】</p> <p>◆研修会 「学校における問題解決をめざして」 兵庫教育大学 古川雅文教授</p>	

I-③ いじめに関する社会貢献活動

(兵庫教育大学・大学院学校教育研究科)

活動名	兵庫教育大学 学校なんでも相談室
対象者	幼児・児童・生徒，保護者，教員，学校教育関係者
実施期間	平成 15 年 4 月 1 日～平成 24 年 12 月（現在にいたる）
活動場所	兵庫教育大学 学校教育研究センター
教員名（専門分野） 関係者等	古川 雅文（学校教育研究科）
参加者数	24 年度の相談件数は，12 月までに 15 件
活動の目的	学校に関するあらゆること（学習の悩み，友人関係の悩み，不登校，習慣や行動の悩みなど）に関する相談。
成果	さまざまな悩みに対して，カウンセリングするとともに，関係機関の紹介などを行った。相談の中には，いじめに関するものやいじめをきっかけに不登校になった児童・生徒の相談等も含まれている。
<p>【活動内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆面接相談 ◆電話相談 ◆メール相談 	

I-③ いじめに関する社会貢献活動

(兵庫教育大学・大学院学校教育研究科)

活動名	平成24年度文部科学省研究指定「社基人基礎力育成カリキュラム開発事業」公開授業及び研究協議（第2回運営指導委員会分科会）
対象者	兵庫県立上郡高等学校2学年1クラス
実施期間	2012年10月12日
活動場所	兵庫県立上郡高校
教員名（専門分野） 関係者等	富永良喜（臨床心理学）
参加者数	参観者を含め80名程度
活動の目的	いじめ防止に対応したストレスマネジメント授業を高校1年生に実施しその効果を検討する。
成果	いじめ意識アンケートにより、いじめ防止の意識が高まったことがあきらかになった。
<p>【活動内容】</p> <p>公開授業Ⅰ 11:40 ～ 12:30</p> <p>1) 場 所 教室棟4F 1年1組～1年6組の各教室</p> <p>2) 指導者 社会人基礎Ⅰ担当者</p> <p>3) 対 象 第1学年全員</p> <p>4) 内 容 「ストレスマネジメント授業」</p> <p>公開授業Ⅱ 13:30 ～ 14:20</p> <p>1) 場 所 本館3F 数学教室</p> <p>2) 指導者 兵庫教育大学 臨床心理学コース 教授 富永良喜 先生</p> <p>3) 対 象 第2学年6組</p> <p>4) 内 容 「いじめに対応したストレスマネジメント授業」</p> <p>研究協議 14:35 ～ 15:35</p> <p>1) 場 所 本館2F 会議室</p> <p>2) 指導助言 兵庫教育大学 臨床心理学コース教授 富永良喜 先生 環太平洋大学 次世代教育学部教授 住本克彦 先生</p>	

I-③ いじめに関する社会貢献活動

(奈良教育大学・大学院教育学研究科)

活動名	大阪市教育委員会いじめ問題対策推進会議助言
対象者	大阪市教育委員会関係者、市内校園長及び生徒指導主事代表者、市内関係機関・PTA代表者
実施期間	平成19年～平成23年(年2回)
活動場所	大阪市教育委員会事務局他
教員名(専門分野) 関係者等	池島 徳大(学校教育臨床)
参加者数	約60名
活動の目的	各学校等でのいじめ対策及びいじめ予防に関する取り組みについて、情報交換等を行う。
成果	各学校等でのいじめに対する取り組み等の情報交換を行うことで、関係機関等との連携が進み、いじめの発生がおさえられるなどの成果が報告された。
<p>【活動内容】 大阪市教育長の挨拶 事務局進行 議案審議 いじめの認知件数等の報告 ピア・サポートなどの取り組み(発表)</p>	

I-③ いじめに関する社会貢献活動

(奈良教育大学・大学院教育学研究科)

活動名	独立行政法人教員研修センター・生徒指導指導者養成研修講座講師
対象者	全国都道府県・生徒指導主事
実施期間	平成14年～毎年（6月3週間のうち3日間）
活動場所	茨城県つくば市・独立行政法人教員研修センター
教員名（専門分野） 関係者等	池島 徳大（学校教育臨床）
参加者数	約350名
活動の目的	<p>いじめ・不登校など生徒指導上の諸問題に的確に対応できる力量を身につけさせるために、文部科学省と共催で実施している研修である。3週間にわたる宿泊研修である。</p> <p>筆者は、3週間のうち、3日間講師を務め、いじめに関するケース・スタディをはじめ、「いじめの理解とその対応」をテーマに講義・演習を実施している。特に、わが国のいじめ対策、文科省のいじめの定義の変遷、いじめが与える心理的影響等について学校教育臨床の視点から触れ、またいじめに関する国際比較研究の知見をもとに、予防的対応として、ピア・サポート及びピア・メディエーション手法を紹介し、演習等を通してそのスキルの獲得と維持を図った。</p>
成果	<p>いじめに関する教育臨床的知見を整理して示し、その対応について、予防的視点からの対応策を提示した。受講生にとっては、非常に好評で学びが大きかったとの反応を得ている。</p>

I-③ いじめに関する社会貢献活動

(奈良教育大学・大学院教育学研究科)

活動名	平成20・21年度教育課題研修指導者海外派遣プログラム(生徒指導・在り方・生き方指導)シニアアドバイザー
対象者	全国の生徒指導主事から選ばれた教員
実施期間	平成20年度11月、平成21年度11月
活動場所	平成20年度11月(イギリス・ロンドン市内小・中学校・特別支援学校、サリー大学にてピア・サポートワークショップ研修、関係機関訪問)、平成21年度11月(オーストラリア・アデレード市内小・中学校、フリンダース大学訪問、シドニー市内小・中学校、特別支援学校、教育委員会等を訪問)
教員名(専門分野) 関係者等	池島 徳大(学校教育臨床)
参加者数	各25名
活動の目的	諸外国の生徒指導の取り組みに学ぶため、海外派遣研修団を実施。筆者は、2年間、シニア・アドバイザーとして計画段階から関わる。特に、いじめ予防の視点から先進的な取り組みを行っているイギリス、オーストラリア訪問を計画・立案し、それぞれの海外研修の目的を明確にして実施した。そのため、訪問先の選定、訪問先との調整等を行った。
成果	研修に参加された先生方からは、大きな成果を得たとの報告を得ている。特に、子どものもっている援助資源を活用するピア・サポートの取り組みは、いじめ対策に極めて有効であることが訪問調査等によって明らかとなるなど、大きな成果を得た。